

開 議

○内谷邦彦議長 おはようございます。

これから本日の会議を開きます。

本日の会議に欠席の通告議員はございません。

よって、ただいまの出席議員は定足数に達しております。

本日の会議は、配付しております議事日程第4号をもって進めます。

日程第1 市政一般に関する質問

○内谷邦彦議長 日程第1、市政一般に関する質問を5日に引き続き行います。

なお、今泉春江議員、渡部秀樹議員から資料の配付について申出があり、会議規則第150条の規定により許可いたしましたので、ご報告いたします。

それでは、順次ご指名いたします。

今泉春江議員の質問

○内谷邦彦議長 順位10番、議席番号15番、今泉春江議員。

(15番今泉春江議員登壇)

○15番 今泉春江議員 おはようございます。

日本共産党の今泉春江でございます。大きく2つの質問をいたします。

まず、最初の質問です。公園課の設置について質問します。

本市では、桜から白ツツジ、アヤメ、萩など、

多くの花や樹木が季節ごとに市民や観光客を楽しませています。四季折々の花に囲まれた私たちは幸せだと感じています。

さて、白つつじ公園では、今年も公園を中心に、黒獅子まつりが盛大に開催されました。前日までの雨もやみ、気持ちのよいお天気となり、多くの方々が黒獅子の舞う姿に、拍手や大きな歓声が出ておりました。私も獅子の舞う姿を拝見していると、心が躍るようにわくわくし、長井の伝統文化を肌で感じる瞬間です。白つつじ公園と黒獅子の演出に、市民は楽しんでいきます。この白つつじ公園は、明治17年から18年頃に地域の方々によって整備され、明治29年、まちの産業振興に貢献した横山孫助氏らの手によって大規模な拡張と池の掘削などが行われ、松ヶ池として公園の基礎が築かれたと聞いております。

七兵衛つつじは、樹齢750年と言われる市の天然記念物です。琉球種の白ツツジが3,000本植えられているとされています。満開の白ツツジは、白い雪が積もったように美しく染まります。また、白つつじまつりは、あやめ公園のあやめまつりよりも古い歴史を持っていて、長く市民や観光客に親しまれていると紹介されています。この白つつじ公園は、花のときだけではなく、年間を通して市民が利用する公園となっています。文化会館やTASビルなども隣接していますので、多くの市民、観光客、来客者が訪れる公園になっています。

そのような白つつじ公園ですが、ツツジも植樹して年数も経過していることや、気象の影響などもあるのででしょうか、前のような勢いもなくなっている印象です。土手沿いの白ツツジは枯れたりしているところもあり、抜かれたままのところも見かけます。また、ここ数年で松や紅葉などの大きな樹木が枯れたり、風の影響で倒れたり、園内の樹木の様子も少しずつ変わってきています。樹木やツツジの管理は、気象条

件などもあり、大変手間のかかるものだと思います。また、公園を囲む周りの環境整備なども重要です。大きな多目的広場、駐車場もあり、年間を通しての公園全体の管理、環境整備が重要だと思います。

昨年の6月議会で、白つつじ公園北側、県道に隣接する歩道の花壇をどうなさるのか質問いたしましたが、地元住民も、公園の外観の印象も考えて、何とかできないかと、地区で毎年、相談しておったそうです。昨年も地区長さんはじめ、有志の方々が自主的に4回ほど雑草を刈っていたと聞きました。今年も白つつじまつりの前に草を刈ったそうです。ありがたいことです。

そんな経過もあり、今年、地区の総会の前に置賜総合支庁西庁舎に花壇の埋め戻しの要望書を出されたとお聞きしました。県では、10月頃に、どのような方法かは決まっていないが、工事をするということになったと聞きました。長井市からも話が来ていますと言われたそうです。地区の方々の大きな懸念が解決でき、よかったと思います。そのようなこともあり、公園や、その周りの環境を総合的に管理する手だてが重要だと感じました。

関連して、長井市の桜観光について質問します。

春一番は、市内の桜の開花とともに、置賜さくら回廊の観光が始まります。樹齢1200年と言われる伊佐沢の久保ザクラや草岡の大明神ザクラなどとともに、堤防沿いにある桜並木や森の桜堤などがあります。白つつじ公園の桜や堤防沿いの千本桜は、道の駅に立ち寄る観光客にも大変好評です。しかし、残念なことに、久保の桜や堤防沿いの千本桜などの衰弱が感じられます。そのこともあり、桜の育成、管理が大切かと感じます。

そこで、提案をしたいと思います。

一つは、昨年、長井市で二世の桜を育てる会

ができました。白鷹町の金田聖夫さんに何度も教えを請い、二世の桜を育てていこうと会員を募り、許可をいただき、大明神桜の種、エドヒガンザクラの種140個分の種をまきました。発芽したものを挿し木で育てると話されていましたが、大変難しいもののようです。今年も種を拾い、植えました。長井の二世桜を育てていこうと頑張っています。育った桜の苗木を会員はもちろん、市民にもお譲りし、長井の桜を育てていこうと話されています。このような団体の皆様とも連携し、桜の育成、植樹、管理などを行ってはいかがでしょうか。

間もなく、あやめ公園も開園します。さくら回廊、白つつじまつり、あやめまつりなどと、次々と準備なさるために、花々の管理は大変なものだと思います。後世に文化を引き継いでいくためにも、その基礎となる公園課のようなものがあれば、そこで官民が協力をし、総合的な管理や専門的な知識をより生かし、長井市の花観光にも寄与できるのではないのでしょうか。いかがでしょうか、公園課の設置をご検討ください。お考えをお聞きいたします。

2つ目の質問です。長井市の平和都市宣言看板設置について、新たな提案を行います。

昨年9月議会で、平和都市宣言の看板設置の要望をしました。要望された市民の方から、その後どうなりましたかと聞かれ、今まであった大きな看板は難しい、長井駅にあるデジタルサイネージでの展示をお話ししました。要望された方は、日常的に市民の目に触れることが、子供たちの平和教育や市民の平和に対する意識向上にも大きく寄与します、残念ですと話されていました。

ところが、市議会の常任委員会で高知市を訪ねましたら、新しく建設された市役所の正面玄関に、高知市非核平和都市宣言の銅板の看板プレートが掲げられていました。資料を配付させていただきます。並んで、市民憲章の看

板プレートも掲げられていました。そんなに大きいものではありませんが、高知市の平和に対する強い思いが伝わってくる看板プレートでした。

世界で紛争が広がっています。多くの子供や市民の犠牲者が増えています。核の危険も近づいてきています。今こそ、私たちが世界平和のために行動をすべきときではないでしょうか。本市でも、平和で安心して暮らせる日本に、そして、世界から紛争がなくなり、平和な世界を希求なされるために、高知市のようなシンボルプレートを掲げてはいかがでしょうか。看板の設置を要望します。市長のお考えをお聞きます。

以上、壇上からの質問といたします。

○内谷邦彦議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 おはようございます。今泉春江議員から大きく2項目について、3点ほどご提言などをいただきました。ありがとうございます。

まず、最初に、公園課の設置についてということのご提言をいただいたところでございます。今泉議員からは、長井市を代表する桜の育成、保全と花観光の振興、さらには管理の在り方、また、後世への文化継承という大変重要な観点から、大変ありがたいご提言をいただいたと思います。

初めに、伊佐沢の久保ザクラ、草岡の大明神ザクラ、最上川堤防千本桜などの育成・管理について説明をさせていただきたいと思います。

長井市には、議員からもございましたように、国指定天然記念物、樹齢1200年を超える伊佐沢の久保ザクラ、また、草岡の大明神ザクラ、これは天然記念物としてはまだ何十年たっているわけではございませんが、地元の皆様をはじめ、多くの市民の皆様の熱意を我々市のほうで、いろんな各方面にお願いして天然記念物が実現したところでございます。また、大正天皇のご即位を記念して植栽された最上川堤防千本桜は、

現在もこれ、ソメイヨシノですが、100年を超える桜並木として、老木ではございますが、みんなで、市民の皆様も大切にさせていただいて、地域の皆様から長年親しまれ、大切に守り継がれた貴重な桜資源がございます。

また、国の桜づつみモデル事業によりまして、森地区において堤防強化と合わせた桜の植樹が行われ、現在では置賜さくら回廊を代表する桜の名所の一つとなっており、多くの来訪者を楽しませていただいておりますが、こちらについては地元の皆さんを中心に、市内外の有志の皆様のお力添えにより桜の保全、育成が図られているということで、大変感謝しているところです。

そのほかにも、山形新聞社、山形放送の8大事業の一つとして、長年、最上川流域を中心に、桜を植栽し、郷土愛や、形成、景観につなげる目的として取り組まれている最上川さくら回廊事業に参画し、市民参加による植栽活動が行われてまいりました。これまでの主な植樹場所といたしましては、伊佐沢地区へ向かう二重坂の県道沿いに伊佐沢の久保ザクラの二世木が植栽されているほか、市道金井神線隣接地、遊びと学びの交流施設「くるんと」、旧長井小学校第一校舎、すみれ学園、長井駅西側、白川きらりふるさと公園など、市内各所において市民参加による植栽も行われてまいりました。桜の木には、植栽された個人、団体のプレートが掲示され、記念植樹された皆様により保管理を行っていただいております。これらの桜は、単なる景観資源にとどまることなく、長井市の歴史や文化、地域の暮らしを象徴する大切な地域資源であり、本市の花観光を支える重要な存在であると認識しております。

これまで長井市は、天然記念物の桜については樹木医による病害虫の診断や剪定、施肥、病害虫への対策など実施しながら桜の保全に努めてまいりました。また、伊佐沢の久保ザクラにつきましては、地元の桜保存会や伊佐沢小学校

の児童の皆さんにご協力いただき、樹勢回復にも取り組んできております。草岡の大明神ザクラ、最上川堤防千本桜についても、桜保存会や地域住民の皆様にご協力いただいて、関係機関及び関係者と連携しながら維持管理を行っております。

一方で、議員からのございでしたが、近年は樹木の老齢化や気候変動の影響などもあり、樹勢の衰えや倒木対策などが課題となっております。特に桜は繊細な樹木であり、長期的かつ専門的な視点による管理が必要であると認識しております。そのような中、市民団体の皆様による自主的な活動は、大変長井市としては心強いものであり、地域の宝である桜を地域で守り育てていこうという取組は、本市にとっても大変意義深いものであります。議員からご紹介ありました、長井天然記念桜の二世を育てる会をはじめ、地域住民の皆様や関係団体の皆様と連携しながら、苗木育成や植樹、保全活動などについて、今後どのような取組ができるのか、なお一層検討してまいりたいと考えております。

桜は行政だけで守り続けることが大変難しく、貴重な地域資源であり、市民の皆様と行政が、それぞれの役割を担いながら守り育てていくことが重要であるとと考えております。

続きまして、2点目でございますが、議員からは、後世に文化を継承するとともに、花観光の振興にも寄与するため、公園課を設置してはどうかという具体的なお提言をいただきました。

長井市には、議員ご紹介のとおり、松ヶ池公園、これは白つつじ公園になりますが、あやめ公園、最上川河川緑地公園など、多くの公園や景観資源があり、市民憩いの場としてはもちろん、観光振興や地域の魅力向上においても重要な役割を果たしております。また、重要文化的景観区域内には、最上川沿いの桜や公園、河川、水路なども重要な構成要素として位置づけられておりますので、景観資源として一体的に守り、

生かしていくことも重要な視点であると認識しております。

この重要文化的景観というのは、ご承知のとおり、平成29年度、平成30年ですけど、実際は、文化庁の非常に、まだ全国に八十数か所しかない1か所に長井の最上川舟運で栄えた長井の町場景観ということでの認定をいただいているわけでございますが、それに議員からあったような、もともと最上川沿いの船着場から始まったわけですから、その周辺なども構成要素として位置づけられており、重要な要素であると考えております。

春は置賜さくら回廊の桜から始まり、今年も市民をはじめ、多くの観光客の方々にお越しいただきました。伊佐沢の久保ザクラでは、毎年地元の方々が中心になって伊佐沢の念仏踊をご披露いただいております。そして、5月には約3,000株の琉球種の白つつじと、長井市の天然記念物に指定されております樹齢750年を超える七兵衛つつじが咲き誇り、白つつじまつりが開催されました。期間中には、今年で第36回を数えます、ながい黒獅子まつりが開催され、今年も天候にも恵まれまして、市内外から多くのお客様がお越しいただいております。今年もインバウンドツアーの方々にもお越しいただき、大いににぎわいのあるお祭りになりました。そして、6月10日からは、間もなくでございますが、長井古種、ハナショウブが咲き誇るあやめまつりが始まります。

長井市の花観光は、長井の魅力を発信する大きな柱となっており、公園や景観資源は観光の資源としても大変重要な存在であります。現在、各公園の運営管理につきましては、建設課、子育て推進課、観光文化交流課など、所管する部署において、それぞれ対応しております。各課の専門性を生かしながら、連携して維持管理に努めております。松ヶ池公園、白つつじ公園の主な管理といたしましては、除草等管理業務や

白ツツジの剪定業務、噴水設備保守点検業務などについては、それぞれ業務委託をして管理しております。あやめ公園においても、剪定業務や一部除草業務については業務委託しておりますが、長井古種の植栽管理、公園管理については、公園管理員で対応している状況でございます。

今年度からは地域未来交付金を活用し、祭り、イベント業務と併せて公園等の一部運営管理業務について、置賜地域地場産業振興センター内にある長井市観光協会に業務委託しております。従来の維持管理に加え、公園の利活用やにぎわい創出の視点も取り入れながら管理運営を行うなど、関係団体の連携による効果的な公園管理を進めているところでございます。

議員ご案内のとおり、樹木の管理や専門性、また、景観維持、観光との連携、さらには文化継承といった観点から総合的な管理体制の重要性は年々高まっているものと認識しておりますので、公園全体の管理業務について効率よく行ってまいります。また、白つつじ公園周辺をはじめ、市内各地においても、地域の皆様が自主的に環境美化活動や除草作業などのボランティア活動に取り組んでいただいておりますことに対し、深く感謝をしているところでございます。

一方で、公園管理についての行政組織の在り方については、限られた人員体制や業務全体のバランスも踏まえながら検討する必要がありますので、現時点において、直ちに公園課を新設する考えには至っておりません。ただ、今後、花観光や公園管理の在り方、専門的知見の確保、市民協働の推進なども含め、より効果的な体制を整えて公園管理を行ってまいりたいと考えております。

実際、公園課を設置するとなると、まず一つは人材だと思っています。特に専門性のある人材がいないと、せっかく公園課を設置しても、結局作業員、きちんと長年技術力を持っている

作業員が中心となって、ただ、作業員も高齢化してしまっていて、なかなか今の技術を伝えることも難しいと。そんな中で、花管理、樹木管理だけではなくて、それに伴う公園全体の管理が必要なわけですね。例えば噴水であったり、様々な施設の管理であったり。正直なところ、白つつじ公園はもちろん有料にしておりますので、市民に親しんでいただく、本当にいろんな方々にお越しいただくわけですが、相当お金がかかります。

それから、あやめ公園については、以前からこちらは有料で行っているんですが、年々有料でいただくお客様は、市民は無料ですから、少なくなっており、収入も1,000万円そこら、2,000万円まで行くかぐらいの状況でございます。それに対して、今求められているのが、あやめ公園の、平成10年頃に都市公園として整備したのですが、それらがもう今の時代にそぐわないということで、あと、施設も大変古くて、あやめ会館に至っては、お祭りなどを運営していただいている長井市観光協会の皆様から、ぜひもっと充実させてほしいと、我々も頑張るんですけども、いらしていただいたお客様がとてもトイレにも行けない状況だとか、あと、エアコンも全然効いていないとか、こういう状況の中で、これ以上お客様を迎えるのは難しいのではないかと。

これを例えば大規模改修等を行いますと、恐らく数億円では済まなくて、数十億円かかるんですね。それに対して、花を管理する、例えばあやめの場合ですと、3年に1回はもう株分けをしないとイケない。膨大な作業量になるんですね。こちらについてはおかげさまで、市民の有志の皆様から何回かに分けて、ボランティアでそういった作業なども手伝っていただいておりますが、なかなか難しいと。今こういう時代なものですから、人口が減少し、高齢化が進み、若い人がいない少子化ということで、様々な対

応もしなくてはいけないということで、議員おっしゃるのもよく理解できますし、こちらについてはもう少し状況を見ながらせざるを得ないのかなと。

結局、今回は地域未来交付金で、今まで直営で行っていたものもあるんですけども、お祭りなどの業務委託、お祭り等々、さくら回廊から白つつじまつり、黒獅子まつり、水まつり、それから、あやめまつり、長井おどりとか、それから、雪灯り回廊なんかもお願いしているわけですけども、そういったところにも、相当頑張って、ボランティアでしていただいていますので、様々な取組にしっかりとした対応をしないといけない。

あと、公園管理については、なかなかお金がかかるんです、補助事業は基本ないので。ですから、地域未来交付金という国の地方創生の事業の中で、ソフト事業と併せてそういったところも新たに観光協会と一体となって、さらなる花観光の充実を図れないかということで、今行っているところでございますが、もう少し状況を見ながら、また、議員おっしゃるように、花の長井でございますので、花観光をもうちょっとしっかりしたいのではございますが、こちらについては観光協会のお力添えもいただきながら、あと、それぞれの桜でも、ツツジはなかなか専門性があるので、市民のボランティアというのは、掃除はしてありますけど、樹木回復なんかは、相当専門的な知識が必要だと。国の天然記念物になっておりませんので、久保桜みたいなものは一応、樹木医などが文化庁からの支援でお願いできるんですね。

ただ、この樹木医も人によって対応が違うものですから、一時期、久保桜も非常に大変な時期がありましたが、樹木医を代わってもらったら、また回復したとか、そういうことがあって、大変難しい状況ではございます。

長井市といたしましては、先人から受け継い

できた桜や公園、景観資源を市民共有の財産として大切に守り育てるとともに、市民、地域団体、関係機関との協働をさらに進めながら、花と緑にあふれた長井らしいまちづくりを次世代につなげられるよう、引き続き努めてまいります。公園課についても、何とか財源を確保した上で検討してみたいと思いますので、何とぞ引き続き、ご助言いただければと思います。大変ありがとうございます。すみません、長くなりました。

2点目の平和都市宣言の看板の設置についてということで、今泉議員からは、高知市民憲章と高知市の非核都市宣言、恐らく低い、1メートルとか1メートル50ぐらいの、そういうものだと思うんですが、こちらの提言、平和都市宣言のプレート看板を設置してはどうかということをご提言いただきましたので、お答え申し上げます。

この内容におきましては、議員からありましたように、令和3年3月定例会と、同年の12月定例会、そして令和7年9月定例会でもご質問、ご提言をいただいております、市の考えをお示ししておりますが、改めてお答え申し上げたいと思います。

長井市では、市制施行40周年を機に、平和の尊さを再認識するとともに、地球上から核兵器と戦争がなくなることを願い、未来に向かって平和な社会を築いていくことを誓い、平和都市宣言を行いました。恒久平和の実現に向け、この平和都市宣言を広く市民の皆様知っていただくことは、とても重要で大切なことと考えます。

ご提言いただいた看板の設置ということについては、庁舎が替わってから、なかなか看板を新たに作るというのは難しいかなと。平和都市宣言も大切なんですけど、例えば水と緑と花の長井というキャッチフレーズであったり、あと、これは10年ごとの総合計画については、平和都

市宣言と比べれば、もう10年でありますので、また違うんでしょうけども、そういったことなども広く市民に知っていただいて、長井市は平和都市宣言をしっかりと議会の議決を得て宣言しているということとか、あと、市民憲章も、これはもう昭和30年、33年ぐらいだったかな、に設定したのですが、これも市民に、昔の昭和の時代の憲章ではありますが、当時の先人の皆様が議会と共にこれらをしっかりと設定して憲章をつくったわけでありまして、こういったものもしなければいけない、そういう思いがございます。

昔みたいな、ああいう高い建物の、高い看板というのは難しいかなということで、今まではデジタルサイネージ等々ということをお話ししてきたんですが、私もこういう時代なので、特に平和都市宣言みたいなのは、もっともっと市民の皆様にも改めて、長井市がそういう宣言した都市であるよということを、こういう時代だからこそ、より改めて市民に知っていただける、そういった必要があると思っています。

現在は小学校とかコミュニティセンターとか等々に看板などの設置をさせていただいていますが、あとはデジタルサイネージなんかもやっておりますが、結論から申し上げますと、私も賛成です、こういうのは。そんなに大きい目立つものではないかもしれませんが、市役所、入り口3か所ありますけども、正面のところの付近に、あるいは国旗等の掲揚台とかあるところがありますよね。ああいったところあたりに、そんなに大きくはなくても、市民憲章と平和都市宣言は、つくってしかるべきかなと思っています。

これらについては、どのぐらいの金額がかかるかですけども、正直なところ、議員もご承知のとおり、今かなり大変です。したがって、今年はブランド戦略課というのをつくったんですが、それはいろんな意味合いがあるんですけど

も、その一つに、長井をよく知っていただいて、ふるさと納税を何とかいただこうと。長井市をはじめ、我々みたいな、長井市みたいな市町村というのは、長井は町村から比べれば財政力は高いんですが、それでも国の地方交付税とか、そういったものなどで足りない収入の部分を補っているわけですね。したがって、例えば市民の皆様が一生懸命働いて頂く市民税とか、あと、企業の法人税とか、上がったとすると、ご承知のとおり、長井市でどれぐらいの、運営するのにかかるか、財政需要額があるんですが、そこからその部分が増えると、結局交付税、減るだけなんです。

ところが、ふるさと納税というのは、それと別物ですから、その応援ということは、非常にある意味では、議員からあったこととか、あとはあやめ公園とか、また、直すには相当のお金かかるわけですけど、当然借入れもします、補助ももらわないと、これができないんですが、一般財源ということで2割程度必要なわけです。そうすると、仮に10億円だとすると、2億円というお金はすごいわけです。ですから、そういったことなどをふるさと納税で今年から、長井は残念ながら、ふるさと納税になる、いわゆる返礼品、本来の意味では返礼品目的のふるさと納税はないんですが、そういうふうな風潮になっていて、私どもはふるさと納税の、返礼品になる完成のものがないんですね、ほとんどないんです。

ですから、農産物とか、あと加工品とか、これを何とか、そうではなくて本来のふるさと納税の趣旨、結局、生まれ育って長井からいろんなところで活躍されている方に長井を応援してほしいと、そのためにふるさと長井会というのをつくってもらって、大分ふるさと長井会からも応援してもらっていますが、例えば私ども、かつては18億円あったんですね。今はビールが駄目になってしまったので、ビールもホップ農

家がすごく優秀だったので、特別に認めていただいた。それがなくなったことによって半分になりました。ですから、9億円しかないんです。

ところが、いろんな県内の、例えば寒河江市とか天童市とか山形市、もう米だけで20億円超えているんです。残念ながら長井市は、置賜の3市はどこでもそうなんです、JA山形おきたまさんからなかなか理解が得られなくて、米を出してもらえないんです。そういったことはもう無理だとして諦めています、何回もお願いしても駄目でしたので、安売りはしたくないということなんです。別に安売りしているのではないですよ、適正な値段で、特に今は米が高い時期でございましたので、それでもなかなか理解が得られなかったと。

ですから、それを本来の応援するため、返礼品は、むしろふるさとに住んでいる家族とか親戚とか、あとは長井市民のために使ってくださいみたいなことをお願いしていきたく。そういうことをしながらでないと、例えばこれは数百万円でできないと思うんですよ、これきつと。1,000万円もかかると思います。それを、1,000万円をしっかりと確保するには、どこか削らなくてはいけないわけです、今。削りようがありませんので、したがって、議員の提案についてはきちんと検討してまいります、ちょっと少しお時間をいただきたいと思っております。

いろいろできない理由を言ってもしょうがありませんので、ただ、その間は、デジタルサイネージとか、あとは各コミセン、小学校等々できちんとお知らせしながら、また市報等で繰り返し、繰り返し、長井市はこういうことで平和都市宣言とか非核三原則を守るとか、そういったことなども市民と共に訴えていきたいと思っておりますので、よろしくご理解賜りたいと思います。長々となりましたけども、どうぞよろしくお願いいたします。

○内谷邦彦議長 15番、今泉春江議員。

○15番 今泉春江議員 市長より、2つの質問ですけれども、どちらも前向きな答弁だったと受け止めております。いろいろ財源というのが非常に、本当に重々承知で質問しておりますけれども、何とか知恵を我々も絞ってというか、長井市のために頑張っていきたいと、今のお話を聞いて強く感じたところでございます。

最初に、公園課ということでございますが、やはり人材ということで、市役所の皆様方も本当にそれぞれ幾つもお仕事を、課を重ねるようにして頑張っていってほしいと思いますので、非常に大変かなと思います。確かにいろいろ、ここは建設課、ここは観光文化交流課とか、公園によってもいろいろありますので、その都度、何かありますときには、その課ごとにいろいろご相談などを申し上げておりますが、そういう統一した課があれば、非常に市民との官民協力という意味でも、力強い管理、育成、いろんな意味で長井市を支えていかれるのではないかなと思います。

なかなかすぐというわけにもいかないでしょうけれども、今、長井市では中心市街地活性化基本計画ということで、高市首相の認定というか、それも受けましたので、中心市街地活性化基本計画の中でも、このまちを構成している公園とか、桜とか、そういうものも一つの中心市街地活性化の重要な役割を果たすのではないかなと。そこを何とか官民協力ということで進めていけたらなという強い思いがありましたので、質問させていただいたところでございました。

市長からは、いろいろ前向きな、必要であるという、将来的にはそういう課が必要だという受け止めでしたので、私はそういうふうに進んでいただきたいなと思います。でも、公園課という、すぐには公園課ができるということではないんでしょうけれども、先ほどお話ししました二世木を育てる会という方が、去年からそうやって種を拾って植えて、何か非常に難しいらし

いですね。

去年140粒植えたらしいんです。ところが、すごく期待して、じゃあ、ちょっと大きくなったら私も買わせてもらいますからみたいな話をしたんですけども、140粒の種を植えて1本しか出なかったそうです。今年も大明神桜、許可をもらって種を拾ってきて、2回ぐらい拾いに行って、それをまた種を植えたそうです。いや、本当に会員の人は、このたった1本出た、このぐらい出ている苗木というか、種から出たんですけど、みんな大きくなれ、大きくなれと、会員の方が本当に願いを込めて写真などを送ってくださったので、それを見たところでした。

本当に技術的には難しいものがあるのかなと思っておりますけども、頑張っって今年も種を植えたという報告だったものですから、そういう方たちも本当に長井の桜というものを育てていこうと、このままではちょっと寂しいなと、もっと頑張っっていこうと、最上川の森の桜堤の花なんかも、毎年私も1本植えているものですから、行ってみますと、小さな、まだ植えて10年ぐらいですので、そんな大きくなりませんが、毎年花を見て、ああ、今年も咲いたなということで、記念写真を毎年撮ってくるんですけども、ああいうもの、もう本当に頑張っていらっしゃる方がいらっしゃるわけですね。だから、やっぱりそういう方たちと官民協力という意味でも、公園課があれば、そういう中で、そういうつながりもできるかなと思って質問させていただいたところでした。

今申し上げましたけども、財源も必要だということでもありますけども、前向きな答弁と受け止めております。市長、すぐにということではありませんけども、そういう計画なども立てていただきたいなという思いでありますので、一言また、しつこいようですけども。

○内谷邦彦議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 公園課については、議員おっし

やるように、例えばつつじ公園一つにしても、あやめ公園一つにしても、それぞれ観光関係の課ではなくて、いろんなところが行政の縦割りの悪いところが残っておりますが、それをなくす意味では、一つの公園課にすれば解決できるかと思うんですが、でも、その課自体で全部調整しなくてはいけないわけです。なかなか困難な状況ではございます。

あとは、課では難しいとしたら、室みたいなので一元化して、市民の皆様から分かりやすいように、花とか公園に関するところはここが窓口だよということではできると思うんですが、課となると、少なくとも5人以上はいないと課にならないわけですね。係でも5人以上の係はあるんですけど、課で、1人、2人では課にはならないので、長井市クラスではなくて、例えばせめて10万都市の、かつての米沢、鶴岡、酒田とか、山形あたりだったら職員も500名とか1,000名とかいますから、そうすると、私どもは280名しかいないわけです。その中で新たに課をつくるというと、かなり厳しいんですが、そんなことも、これは言い訳にしか聞こえないかもしれませんが、ですから、私どもに合ったような形での、ただ、公園の必要性というのはごもっともでございますので、これからも管理・運営も含めてどうしていくかということ、を、ちょうど今模索しているところなので、検討してまいりたいと思います。ありがとうございました。

○内谷邦彦議長 15番、今泉春江議員。

○15番 今泉春江議員 よろしく願いいたします。

今のことで、質問にもお書きすればよかったんですけども、前に長井市のあれですね、参考までにあれなんですけど、山形新聞に前に、資料提供するとよかったんですけども、守ろう大明神桜ということで、2回ほど高世重右エ門さんが書いた記事なんかもあったんですね。これ

を拝見すると、本当に皆さん、市民の方が大事に育てていこうと、守っていこうという、そういう強い思いが市民の方々にありますので、ぜひそういう思いも市長、受け止めていただいて、どういう形になるかはあれですけども、公園課のような官民一体で管理できる市民のための公園ということで、大切に樹木、花を育てていかれるような手だてをお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

次に、平和都市宣言のプレートなんですけども、市長もおっしゃるように、そんなに大きいものではないんですけども、でも、何か平和都市宣言のほうは銅板のような感じのでしたけども、非常に品のあるというか、重厚な、玄関にありましたので、非常にすばらしい、高知市の思いというのが本当に伝わってくるような看板でございました。

確かに大きいものはちょっと大変だなということは前回の質問でも十分あれなんですけれども、市民の方からそういうものが欲しいと。どうなったかと、子供たち、それから市民に平和の大切さというものを目に触れるところでお知らせしたいというか、長井市もこういうふうに考えていますよという、そのシンボルが欲しいということだったものですから、これは、これぐらいだと長井市でも頑張って正面玄関にできるかなんて、非常にちょっと感激して、ああ、これというので拝見してきたところでした。

ぜひ正面玄関とか、市長もおっしゃったように、国旗のあそことか、ああいうところに本当に掲げていただければ、日頃、市民の方にも目に触れるし、それから、子供さんたちなんかにも読んでいただけるとか見ていただけるものになるかと思うしますので、これも財源ということになりますので、大変なことは重々承知しておりますが、市民のために、今こそこういうものがいいのではないかなと。もう本当に私は毎日のように、プレートがあったからということでは

ないんですけども、今こそ本当に平和に対する気持ちを表すというのが大事ではないかなと、毎日のように思っております。

このことも市長も、ちょっと前向きな、財源があればということでございますけども、前向きに考えて、何か財源が見つかりましたら、ぜひ取り組んでいただきたいなと思いますので、本当に気持ちはあるけども、できませんよだけでは、ちょっとがっかりしますので、何か本当に取り組んでいただければなと思うんですけども、市長、本当に大変なことは重々承知、もう本当に、いつも大変なことは重々承知しておりますが、承知の上で質問しておりますので、ぜひもう一度、この平和に対する思いというものを最後にお話しいたいて、お願いいたします、すみません。

○内谷邦彦議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 大変ありがとうございます。

例えばイメージとしては、前に私は文化会館の入り口のところに少し庭があって、駐車場とロータリーみたいになってはいますけども、あそこに長沼先生の作品と、あとちょっとあるんですね。ああいった感じのイメージでできないかなと思ったことはありました。今回いただいた、これ平和都市宣言も重要なんですが、私としては、できれば一緒にしたほうがいいと思うんです。別々ですけどね。そういったときに、今の長井市役所のところはちょっと難しいんです。ですから、駐車スペースを潰すしかない。正面玄関のところは、障がいをお持ちの方用に2つつくってあるんです、雨に当たらずに乗り降りできるように。あそこを潰すというのは、ちょっと難しいと。

あと、前は道路ですよ。多分高知市役所は私、行ったことないんですが、前は結構少し庭みたいになっていて、駐車場から即ではないと思うんです、分からないですけど。ですから…。

（「外壁のところに貼ってあった」と呼ぶ者あり）

○内谷重治市長 ああ、外壁のところに。ですから、多分後でつけたのか、最初ではないと思うんです。ですから、外壁にというのは、これからはちょっと難しいわけです。そんなにスペースもございませんし、この辺のところをどうするかですけども、平和都市宣言も大切ですけど、併せてやるんだったら、市民憲章も私はすべきだと思います。そのほうが、かえって生きるんです。平和都市宣言と、あと市民としてこういったことをみんなで守りましょう、頑張りましょうという、それは一緒にすることによって、むしろそれぞれ生きると思いますので、そこをどこにするかということと、あと、財源が、合わせれば1,000万円以上はかかると思います。

ですから、そういったことなども含めて、私ももし引き続きできるのであれば、検討します。私も空約束できませんので。ただ、本当に重要だと思っています。また、全国市長会の会長は今、広島市長ですし、応援、そんなに親しいわけではないんですけども、広島、長崎だけではなくて我々も、原爆だけではないですからね。どういうふうにして平和を維持するかというのは非常に、次の世代のその先の世代のためにも、我々ちゃんとした行動をしなければいけないと思っています。ぜひそんなことで、少しお時間いただきたいと思います。よろしくお願いします。

○内谷邦彦議長 15番、今泉春江議員。

○15番 今泉春江議員 市長からは前向きな答弁と受け止めております。ぜひよろしくお願いいたします。

質問を終わります。

渡部秀樹議員の質問

○内谷邦彦議長 次に、順位11番、議席番号10番、渡部秀樹議員。

（10番渡部秀樹議員登壇）

○10番 渡部秀樹議員 お疲れさまでございます。21爽風会の渡部秀樹です。よろしくお願いいたします。

それでは、通告に従って質問させていただきます。このたびの質問は、教育行政の現状と課題等についての1項目であります。細目が数件ございますので、順次お答えいただきますよう、よろしくお願いいたします。

社会問題となっている少子化の中で、子供が健やかに育つ環境づくりを目指す本市の教育についてお聞きいたします。

1点目は、市内小・中学校及び高等学校の施設分離型一貫校（仮称長井学園）への移行並びに県立長井工業高等学校の市立高等学校への移管についての提案をさせていただきます。この質問は、議長のお許しをいただき配付させていただきました資料の両面にわたりますが、質問事項1の（1）もご覧になりながら、お聞きください。

この質問は、令和元年6月、令和3年6月、令和3年12月定例会に続く、学校の統廃合に係る4度目の提案になります。このたびは市内6つの小学校と2つの中学校に、長井工業高等学校も加えた小中高一貫教育並びに長井工業高等学校の市立化についての提案をさせていただきます。ちなみに、小中高一貫教育は、初等教育、中等教育、後期中等教育を切れ目なく、12年間を一貫したカリキュラムや独自の教育方針の下で展開する教育システムで、学習意欲の向上や発達段階に応じたきめ細やかな指導を強みとしています。また、県立高校の市立化は、全国的な事例から、自治体独自の教育方針の推進や地域の人材育成、少子化に伴う学校の統廃合回避などを目的に行われている政策であります。